



学校だより

12月号

横浜市立六つ川台小学校
令和5年11月21日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>
E-mail: ky-e-mutudai@city.yokohama.jp

登校支援の現状と背景

児童支援専任 高味 裕二

11月でも夏日、そうかと思えば一気に木枯らし1号。学校での子どもたちの服装も様変わり。「四季折々」という表現は果たしていつまで使えるのだろうかと感じてしまうほどです。近年は気候変動の影響がたびたび報道され、地球規模での対策が急がれています。さて、話題を気象から学校に移します。下の表をご覧ください。

	1992年度	1997年度	2002年度	2007年度	2012年度	2017年度	2022年度
児童数	13710人	20765人	25869人	23927人	21243人	35032人	105112人
割合	0.15%	0.26%	0.36%	0.34%	0.31%	0.54%	1.70%

これは、全国の小学校の不登校児童(何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童が登校しない、あるいはしたくてもできない状況にある者)の人数と、在籍児童数に占める割合を表したものです。文部科学省の調査において、不登校児童の割合は30年間で10倍になっています。また、ゆるやかに推移してきた25年間に比べ、直近の5年間では増え方が大きくなっています。2022年度では、59人に1人が不登校児童という計算になりました。不登校児童の急速な増加の背景には、コロナ禍での生活環境の変化があるようです。子ども達にとっては、様々な制限によって交友関係の構築が難しくなりました。

このような中、登校支援の取り組みが進められています。本校では、保健相談室を活用し、登校や学習に難しさを感じている児童への支援にあたっています。横浜市教育委員会では、ハートフルルーム事業・ハートフルスペース事業・ハートフルフレンド家庭訪問事業などを運営し、児童の状態に応じた支援を行っています。また、市内にはNPO法人や民間団体による登校支援機関、いわゆるフリースクールも数々展開されており、多くの児童の居場所となっています。

学校に来られている子の中にも、不登校傾向がみられることがあります。何かをきっかけに誰もが不登校になりうる現代社会。その中においても現状を見つめ、多様な困り感により一層寄り添っていきたくと思っています。

2023年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。